

## **研究グループ2**：「現代中国政治の社会基盤」

(代表者) 森 時彦 (現代中国研究センター長、人文科学研究所教授)

(分担者) 山本 裕美 (経済学研究科教授、同研究科上海センター長)

江田 憲治 (人間・環境学研究科教授)

岩井 茂樹 (人文科学研究所教授)

袁 広泉 (人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、人文科学研究所附属現代中国  
研究センター客員准教授)

堀 和生 (経済学研究科教授)

寺田 浩明 (法学研究科教授)

籠谷 直人 (人文科学研究所教授)

(研究協力者) 大西 広 (経済学研究科教授)

劉 徳強 (経済学研究科教授)

本グループは、現代中国の政治・統治体制に色濃く残る政治文化の源流とその展開を、歴史学のパースペクティブから分析する。近代以来の中国政治の統治原理は、いわば「人治」から「主義治」へ、さらに「法治」へと展開してきたということが出来るが、現代中国の「法治」はなお、英明なる指導者グループによる統治（人治）と社会主義という真理による統治（主義治）の二つに支えられるという建前になっている。本研究グループは、かかる認識の上に立って、20世紀中国における政治統治の基盤・風土について、それを中華民国・初期人民共和国との連続性においてとらえながら、中国政治のイデオロギー性、および中国の社会システムと政治とのかかわりを研究する。

## **研究計画 (2007-12年)**

### **1. 研究活動**

「現代中国政治の社会基盤」を分析するための試行研究として、「20世紀中国の社会システム」をテーマとする研究会を、隔週1回（平日開催、毎回3時間）の割合で開催する。中国近現代史をロングスパンで縦断的に切開し、かつ近代の中国社会を通観するだけでなく、さらに前近代あるいは現代との繋がりをも視野にいれながら21世紀にまでおよぶ中国史全体の流れの中で、現代中国政治の社会基盤を検討するための問題点を洗い出し、認識の共有をはかる。研究会は、当然に研究グループのメンバーが中心となるが、関西地区にあって現代中国研究をすすめている学内外の若手・中堅研究者に積極的な参加をよびかける。「20世紀中国の社会システム」研究会は、今年度より一年間実施し、その成果を報告論文集の形でとりまとめる。これと同時に、この研究会によってより具体的な課題を絞り込んだ後、2008年度よりは、「長江流域社会の歴史景観」をテーマとするメイン研究に移行する。具体的には、3-4年間

にわたって、研究グループのメンバーが中心となって定期的なセミナーを行い、地域レベル（四川、両湖、江南）での中国政治の社会基盤を、それぞれのメンバーが探求することとなろう。本拠点における研究会は、参加者に強い帰属意識と参与義務を持ってもらうため、あえて平日に定期開催することを特徴とし、また、よく見知った研究仲間同士のサロンの議論になるのを避けるため、状況に応じて、共同研究班を報告・討論ともにすべて中国語で行うなどのワークショップ形式にする。これによって、若手研究者に国際的なディベート空間で情報の発信・交換をするインテンシブな経験も積んでもらう予定である。

## 2. 資料整備

本拠点の置かれる人文科学研究所は、人民共和国期（主に 1950-80 年代）の中国地方新聞コレクション（20 種以上に上る地方紙〔原紙〕を 30 年分以上）をまとめた形で所蔵している。中国の地方紙は、1970 年代以前にあっては中国国外への持ち出しを禁止されていた貴重な資料群であるが、従来は収蔵スペースの関係で、アクセスの困難な場所に保管せざるを得なかった。中国各地の政治・経済・社会・文化の情報が詰まった宝庫とも呼ぶべきこの貴重資料の利用環境を改善するため、センター内に設置される「現代中国情報資料集積基地」にこれらコレクションを移し、中国の各種年鑑、新編地方志等と合わせて整備する。さらに、同基地内に CNKI（China National Knowledge Infrastructure）に常時接続可能なコンピュータ端末を置き、学内外の利用者に原資料とデジタル資料とに同時にアクセスできるような研究環境を整える。さらに上記の中国地方新聞コレクションを適宜デジタルデータ化する予定である。

## 3. 現地調査の実施

上記 1, 2 の活動を有効にすすめるため、研究グループ 1 と共同しながら随時（年間 1, 2 回程度）海外調査を実施し、これまでわが国において収集が十分でなかった分野の人文系図書・雑誌・資料の調査・収集につとめる。

## 4. 若手研究者の育成

研究グループ 1 と共同しながら若手研究者の育成を図る。具体的な計画については、研究グループ 1 の項目を参照のこと。

## 2008年度の事業計画

### 研究グループ2

#### I 今年度の目標

人文科学研究所の新研究棟への移転が、研究棟改築工事の遅延のために2007年度末までずれ込んだため、初年度の目標であった施設設備（特に「現代中国情報資料集積基地」）の整備は、不十分なままとなっている。したがって、今年度こそは「拠点」の名にふさわしいその施設設備を整備せねばならない。幸いに、2008年3月を目処に300平方メートル余りの研究スペースを確保できることになっており、今年度は施設設備を本格的に整備し、本拠点の現代中国関連資料を、内外の研究者のアクセスしやすい条件のもとに置くようにつとめる。このほか、最終年度を迎える「20世紀中国の社会システム」共同研究班の報告論文をとりまとめ、これの刊行を進めるとともに、グループの研究者（代表者、あるいは共同研究者）の研究成果を対外的に発信していく。また、研究グループ1と協力して、国内・海外調査、資料収集を継続する

#### II 活動内容

##### 1. 研究会活動

###### ①「長江流域社会の歴史景観」共同研究班（班長：森時彦）

開催時期：2008年4月～2009年3月、通年、隔週1回、平日、毎回3時間前後

開催場所：京都大学人文科学研究所分館会議室

##### 2. 国際ワークショップ

###### ①「現代東アジア政治・経済にかんする国際シンポジウム」

招聘者（予定）：国外より4，5名程度

開催時期：2008年秋（予定）

開催場所：京都大学経済学研究科上海センター

###### ②「近現代中国における政治変動と学術世界の再編 II」

招聘者（予定）：国外より1，2名程度

開催時期：2009年1-2月（予定）

開催場所：京都大学人文科学研究所

##### 3. 海外調査

###### ①「長江流域社会の歴史景観」関連予備調査

調査者：森時彦、大西広、劉徳強、袁広泉

調査場所：上海、湖北省（武漢）、江西省（九江）、安徽省（安慶）、江蘇省（南京、常州）

###### ②中国東北における社会的政治基盤に関する調査

調査者：江田憲治、寺田浩明、岩井茂樹、袁広泉（+ 若干名の若手研究者）

調査場所：遼寧省（大連）、吉林省（延吉、長春）

#### 4. 資料収集

- ① 中国各地の新編地方志、地方紙、年鑑類の収集
- ② 国内諸機関、各拠点の所蔵する定期刊行物の調査・収集

#### 5. 資料整備

「現代中国情報資料集積基地」の整備 本拠点内に「現代中国情報資料集積基地」のスペースを確保し、人文科学研究所の所蔵する中国の地方紙、各種年鑑、新編地方志等の閲覧利用条件を改善する。これと併せて同基地内に CNKI に常時接続可能なコンピュータ端末、マイクロリーダーを置き、学内外の利用者に原資料とデジタル資料とに同時にアクセスできるような研究環境を整える。